

シンポジウム E

変化する気候下での海洋環境影響評価

開催日時：2025 年 9 月 25 日（木）9：30～12：30

会場：第 4 会場（北海道大学函館キャンパス 講義棟 第 6 講義室）

主催：海洋環境問題研究会

コンビーナー：河宮 未知生（海洋研究開発機構／東北大学）、
小埜 恒夫（水産研究・教育機構）

趣旨

全球的な気候変動はもとより、我が国における異常気象頻度の増加、水資源及び植生の変化、周辺海域における水産資源変動など、地球温暖化の影響は多岐にわたり顕在化しつつあるという認識が広まっており、国を挙げての対応が急がれている。文部科学省と気象庁のイニシアティブのもと公開された「気候予測データセット 2022」（以下 DS2022）には、海洋環境を含む多岐にわたる領域の気候予測データが含まれ、農林水産業や治水など関連諸分野で活用が進んでいる。日本周辺海域については 2km という高解像度で 2100 年までの予測データが公開されている。本シンポジウムは、地球規模気候変動とその沿岸への影響評価研究の現状を概観したうえで、DS2022 や環境 DNA データセット ANEMONE を含む環境データの内容や利用方法を紹介し周知を図り、海洋関連諸分野において信頼に足る将来変化予測につなげることを目的とする。

プログラム

- | | |
|-------------|--|
| 09:30-09:50 | 「開会挨拶および趣旨説明」河宮未知生（JAMSTEC/東北大学） |
| 09:50-10:20 | 「日本の沿岸の魚類多様性、漁業の状況と気候変動の影響について」
伊藤進一（東京大学） |
| 10:20-10:50 | 「内湾・エスチュアリー環境に対する気候変動影響について
ー有明海を例にー」速水祐一（佐賀大学） |
| 10:50-11:05 | 休憩 |
| 11:05-11:25 | 「ANEMONE：環境 DNA を利用した生物多様性観測とその可能性」
近藤倫生（東北大学） |
| 11:25-11:55 | 「海洋予測データセットについて」中野英之（気象研究所）ほか |
| 11:55-12:25 | 総合討論 |
| 12:25-12:30 | 閉会挨拶 |